

大館市総合教育会議 会 議 録

令和 7 年 4 月開催

令和7年度 第1回大館市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年4月21日 月曜日

開会 15時 閉会 16時30分

2 会 場 市役所本庁舎 第4委員会室

3 出席委員	市長	石 田 健 佑
	教育長	長 岐 公 二
	委員	山 田 和 人
	委員	小笠原 正 卓
	委員	工 藤 啓 子
	委員	真 田 かずみ

4 事務局	教育次長	若 松 健 寿
	教育監	野 呂 謙 一
	教育総務課長	北 林 香 子
	教育総務課長補佐	宮 崎 史 人
	学校教育課長	鈴 木 明
	学校教育課長補佐	柴 田 賢
	学校教育課長補佐	工 藤 貴 胤
	生涯学習課長	畠 山 慶 子
	生涯学習課長補佐	羽 沢 秀 則
	中央公民館長	外 館 志
	歴史文化課長	関 智 仁
	歴史文化課長補佐	鳥 潟 幸 男

5 協議事項 (1) 大館市教育振興施策の大綱について

6 会議内容

○若松教育次長

ただいまより、令和7年度第1回大館市総合教育会議を開会いたします。

本会議構成員の皆様の出席状況は、全員出席でございます。

まず、会議の公開の取り扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はおりませんが、報道関係者の取材希望が1社おります。

本日の会議につきましては、非公開とすべき事項はないものと考えますので、会議を公開とし、傍聴を許可したいと思いますのですが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

開会に当たりまして、当会議の招集者であります石田市長がご挨拶を申し上げます。

○石田市長

本日は大変お忙しい中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

新しく長岐教育長に替わりましたので、今日皆様とこれからの教育について、どのような方向性をもって進めていくかということを経験できることを楽しみにしておりました。

前の高橋教育長にも様々な実績や成果を出していただきました。先日私が出張で東京へ行った際にトークセッションイベントがあり、そこに大館にいた方が「石田市長が登壇するなら見てみたい」と、わざわざ東京まで来て参加してくれました。さらに今もインスタグラムでつながっているのですが、私に対して直接「こういう教育方針の提案があります」という資料を送ってくれたりしています。

着実に前教育長が進めてこられたふるさとキャリア教育の成果が出てきていると実感しています。これから先は、成長してきた子どもたちが活躍するフィールドを大館市としてどう提供していくかということが、我々部局の仕事となってくるのだらうと感じています。

教育とまちづくりがつながっていく仕組みを皆さんと一緒に作っていきたいと思いますので、今日は皆様からきたんのないご意見をお願いし、ご挨拶といたします。

本日はよろしくお願いいたします。

○若松教育次長

ありがとうございました。

これより本会議の進行は、大館市総合教育会議運営要綱の規定により市長が議長と定められていることから、石田市長が務めることとなります。

石田市長、よろしくお願いいたします。

○石田市長

それでは、運営要綱に基づきまして、議長を務めさせていただきます。

円滑なご審議にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

次第に従いまして、順次、進めさせていただきます。

次第3番、長岐教育長よりご挨拶をいただきます。

よろしくお願いいたします。

○長岐教育長

教育委員会のトップが替わりまして、これからの大館の教育、進む道筋を今語らな

ければ、首長との目標の共有という総合教育会議の目的を達成できないと思いますので、挨拶に代えてお話をさせていただきます。

大館市はふるさとキャリア教育を14年間積み重ねてまいりました。そもそもこのふるさとキャリア教育のスタートは消滅可能性都市という、あたかも自尊心を傷つけられるかのごとくの物言いに対する挑戦でもあります。

そのきっかけが東日本大震災だったことは皆様ご承知のとおりですが、被災地の人々のふるさとに対するスピリッツの偉大さを目の当たりにして、私たちも少子化の危機を脱却するための希望を教育で生み出したいというのが始まりでした。

この危機が再生に至る転換期だったという実感がなく、子どもたちが大人の数も子どもの数も更に減ると予想される未来に、大館で人生を歩むことになったとき、様々起こるだろう問題を自らの知恵と技術と志で克服していける未来大館市民に育てることが我々の責務だと考えています。

そのために、これまでの大館教育の積み重ねをこれから未来へつなぐということが私の基本的な考え方であり、そのため、3つの段階を考えています。まず、これまでの実践によって私たちや学校に、子どもたちに芽吹いた強みは何なのかを明らかにしたい。

これまで大館教育は他の自治体から多くの称賛をいただいてきましたが、それは主に創意工夫された活動についてであって、それによって獲得できた学校の強みとか、子どもの強みについて、内部の者同士が学校の枠を超えて実感を伴う議論をしてきたことは非常に少なかったのかなと思っています。

そもそも強みがあるからこそ、受け継いでいけるのであって、まずはそれを明らかにしたいのが1段階です。

次に、それを更に磨いて一層輝きを放つものにするための方策を考える。生み出された強みというのは放っておくと消えてなくなります。それを更なるものにしようと思うなら、戦略をクリエイトするのは当然のことです。

最後に、その強みが受け継がれていくための仕組みを作ること。教育の現場では必ず人が替わります。それは大人も子どもも同じです。その中で私たちの強みを変わらずに受け継いでいくためには、仕組みというものを作ることが必要であります。受け継がれた強みはブレない軸となり誇りとなるはずで。

ふるさとキャリア教育の目標行動はふるさと大館を基盤として、職業選択を含めた自らの人生の道筋を思い描くことですが、それを充実させるためのポイントとして、現場の先生たちには2つ意識してほしいと話しています。

1つ目は、ふるさとに良さを感じたり、誇りを持てるようにするためには、単に知識を獲得したり、技術を身に付けたりするだけでなく、笑ったり、びっくりしたり、感動したり、必死になったり、夢中になったり、そういった体験が伴っていることが極めて重要だろうと思っています。

その体験から生まれた考えや思いが、ふるさとの価値を実感する骨となり肉となることから、ふるさとキャリア教育では心震える体験を呼び掛けています。

2つ目は、自らの人生を思い描く上で大事にしたいのが憧れです。周囲の大人との出会いが極めて重要な意味を成すと考えています。キャリア教育には、カッコいい大人との出会いを現場の先生方に呼び掛けていて、これらの方針とこれまで私たちが築き上げてきたふるさとキャリア教育の取り組み施策を精査して、校正し直したのがこの資料（別紙）です。

中央の「就学前教育」から始まり、その上の「義務教育の鉢」を通して上へ大きく育った樹木は、その上の高等学校・高等教育を終えると社会人としての大館市民、つまり、今度は子どもを支える大人の一人となり、大地を豊かにする葉の1枚となって下に落ちてくる。この育ちの循環、これを実現するのはふるさとキャリア教育だろうと考えています。

この構図を実現するための教育委員会の役割は、一番下にある施設設備整備で支える教育総務課、価値ある教育活動の創造と人材育成、つまり、学校教育磨きを支える学校教育課、大館の強みを生み出し、誇りを醸成する大館磨きの歴史文化課、豊かな学びづくりでカッコいい大人を育てる学び場創造と大人磨きで支える生涯学習課、この4課全体でふるさとキャリア教育を実現していきたいと考えている構想です。

この後、各課からこの方針に沿った具体的な説明があるので、どうかよろしくお願いします。

○石田市長

ありがとうございました。

次に、4番の協議事項について、事務局より説明を求めます。

（事務局より説明）

○石田市長

ただ今の協議事項について、皆様から順番にご意見を伺うことにします。

○小笠原委員

各課からご説明いただいたことに関して気になったのは、教育総務課から説明いただいた「長寿命化改修等による学校整備計画の推進」については、市民も承知のとおり学校の老朽化やインフラに関わるものが全てと言っていいほど老朽化してきている中で、市長が掲げるまちづくりにも関わってくると思うのですが、「学校の統合再編を見据えた」という文言から、統合再編について伺います。

学校再編統合に関する長寿命化改修、大規模改修の見通しについて具体的にお伺いしたいです。

○教育総務課長

どこの学校かは決めていませんが、そろそろ具体的に着手しなければならないとい

うことで関係課と話をしています。主導するのは学校教育課となりますが、今年度からアクションを起こしていかなければならないと考えております。

○真田委員

全体構造の詳細を知ることによって非常に勉強になりました。各課共ふるさとキャリア教育を核として、充実の内容になっていると拝見しました。

○工藤委員

最初に教育長からふるさとキャリア教育の全体構造の話がありました。14年を経てこれまでの成果と課題を踏まえて、目指すものがこれまで以上に具体的になったと思いました。

3点ほど各課の説明と関連してお話したいと思います。

1点目は、教育ツーリズムについてです。訪れた方々に大館の教育を公開して終わりではなく、あるべき教育の姿を語り合う場を設定するということに大いに賛成いたします。教育長のお話の中にありましたが、たぶん先生方は現状では絶対に満足していないと思いますし、更に上を目指したいと思っているはずだと思います。

こういう場を通して強みを確認し、更に磨くきっかけになればいいと思いますので、教育ツーリズムを企画するにあたり、その辺も意識して進めていただきたいと思います。

2点目は、教育長のお話の中に大人磨きという話も出てきて、大変いい言葉だと思いました。ふるさとキャリア教育で育った子どもたちが地域を支える大人世代になってきていることで、市長のお話にもありました、若い大人たちの意見を吸い上げるつながりができたことが生涯学習課、中央公民館、歴史文化課の取り組みにもつながってくると思います。そういった仕組みができればいいのかなと思います。

3点目は、教育環境整備です。小笠原委員からもお話があったのですが、市内の25校はいろいろな地域があって、大きい小さいもあるのですが、一番大事なことはこの学校の子どもたちにも等しく質の高い教育を保障することではないかと思っています。

ハード面、ソフト面共に頑張っていて、支えていただいていると思っています。ただ、年々財政が厳しくなる中で耐震化計画も関連してくるのですが、今後、しわ寄せが出てくるのではないかと考えています。

先ほどまだ見通しが立っていないということでしたが、地域や保護者の方々がほしいのは、その見通しではないかと思うので、その辺を早く示していくことが必要ではないかと思っています。ただ、簡単に統廃合すればいいということではありません。学校が地域の活力の源になっていることは重々承知しておりますので、その辺も考えながら地域の方々と話し合いながら、見通しを早く示していただければと思います。

○野呂教育監

工藤委員からの教育ツーリズムに関して、現在、6つの団体が申し込みをしています。足を運んで見る招へい型として先生を派遣するのが1団体あります。

昨年度、現教育長から教育ツーリズムの中で単に視察に来て、観て、感想を持って帰るのではなく、大館の先生方にも成果を実感してもらいたいということで、大館に来た先生方が自分たちの実践において大館の先生方を紹介し合う、ウィンウィンになるような懇談会的な形式で行っております。今後も引き続き充実させていきたいと思っています。

○山田委員

大館の山々が大人に見える。盆地の田や畑や木や川が子どもに見える。そういうふうにこの盆地は大人たちに守られてきたのだらうという気がします。ある意味大館の教育を全てこの盆地の子どもたちに集約することで活路を見出してきたのが、大館教育の14年間の成果ではなかったかという気がします。

市長は「子や孫と共に栄える大館」をテーマに掲げて頑張っていらっしゃいます。すごくいいことだと思います。子や孫に全力投球するくらいの投資をする覚悟をもって、この大館を掘り返したらどうなるだろうと私は期待を高くしております。

これだけ教育の成果が出てきている中で、子や孫たちにもっともっと教育の質を高め、そして環境も高めていったら、逆にどんどん人も集まるところになるのではないだろうかと考えました。今、正に市長の考えられていることはこのような事ではないのかなと推測した次第です。

その中で教育長が「五感に響くことが大事だよ」とおっしゃってくださいました。極端な例ですが、ある哲学者が話していた99パーセントが情操で、1パーセントが知だということ。

驚きや悲しみ、そして喜びなどを感じて初めて教育はものになっていくと思います。今日、教育長から学校教育の中でしっかりと強みを発揮してくださると力強くお伺いしました。

前回の会議の中で「大人たちはワクワクしているだろうか」ということを市長にお伝えしたことがありました。今度は子どもたちがもっとワクワクしていくはずですので、子どもも大人もワクワクしていくような大館を、これから市長と共に一緒に手を携えて施策を打っていければいいと思いました。

○石田市長

山田委員から「子や孫世代と共に栄える」という部分に触れていただいてありがとうございます。私はこれをとても大事にしていまして、これから日本はどこの自治体も大館と同じような状況になってくると、そういう意味では20年、30年後に行く少子高齢化の先進地であると思います。

少子高齢化というと非常に危機的な状況だと捉えることもできますが、逆転の発想をすると、子ども1人に対しておじいさん、おばあさんたちが非常に多いと考えます。

ある意味、日本はトップクラスにおじいさんとおばあさんが多い地域だと思うので、これまでいろいろな経験を積み重ねてきたおじいさん、おばあさんがたくさん子どもたちを支援してあげると、間違いなくこの地域は良くなるだろうという仮説の下頑張っています。

いくつかこの内容についてもお聞きしたい部分やお願いしたい部分があるので、紹介させてください。

1つ目は、委員の皆様からも意見が出ましたが、校舎の老朽化、統廃合についての話ですが、財政について人件費は県から出していただいている部分です。市の財政部分でいうと校舎の老朽化修繕の部分になりますが、残そうと思えばある程度残していける部分もあると思います。それよりも優先すべきは子どもたちがしっかりと教育を受けられるかどうか、教育の質が下がらないような計画を立てていただきたいというお願いです。

2つ目は、DX（デジタル変革）やアウトソーシングです。会計年度任用職員の話が事務局からありましたが、学校の先生や職員がやらなければならない仕事とやらなくてもいい仕事があると思います。そこをしっかりと仕分けして外部に出せる部分はどんどん出し、内部でやらなければならない仕事はDXを進めていくということが重要だと思います。

ここは市長部局でも非常に悩んでいる部分で、煩雑な仕事をそのままデジタルに変えても仕方がないので、そこは仕分けしてDXしていくということが大事だと思います。DXは教育の分野でもぜひ進めていただきたいと思います。

3つ目は、せっかくデジタルがあるので、活用できることはどんどん使っていただきたい。渋谷の長谷部区長とお会いする度に、よく教育の話をさせてもらうのですが、渋谷では子どもたちが朝、学校でタブレットに天気と体調を自分で入力する、そうすると体調が悪いのは天気の影響を受けていることが分かってきたという話がありました。

データを毎日取ることで分かってくると、子どもが検索したデータを集め、「いじめ」というキーワードを入れた子どもや自分が興味を持つことを入力した子どもを分析しながら、もしかしたらこの子はいじめられているかもしれないということを調べて先生方が対応に当たっている。親に相談できる子もいれば、相談できなくて抱え込んでネットで調べる子もいる。

そういった子どもたちの逃げ道の選択肢を作ってあげることがデジタルにおいてできると思います。長谷部区長はいつでも渋谷に視察に来てくださいと言っていましたので、取り入れられる部分があれば導入を進めてほしいと思います。

他には地域を巻き込んだ教育として、ふるさとキャリア教育で「地域も先生に」ということで取り組んでいただいているが、できればふるさとキャリア教育の中で子どもたちと保護者が一緒に学べる部分をもう少し増やしていただけないかなと思っていて、特に高校に行ってから進学するときに、どうしても学校の先生と親の意見をとっても受けやすいという話をたくさん耳にしています。

そういう意味では大館にこういう仕事があったとか、まだ保護者の知らない仕事がたくさんあるはずなので、子どもと保護者の目線を広げてあげることが大事だと思っています。

そして、目線を広げた後に自分を知るところも大事だと思っていて、自分がどんな夢を持つかは一人一人違い、どんなときに喜びを感じるのかも一人一人違います。自分の性質をしっかりと理解することが夢につながり、選択するときの重要な指標になると思うので、ここも大事にしたいと思います。

あと、情報発信というのも出てきましたが、私も情報発信を頑張っていて、市長に就任して約半年ですが、Xとインスタグラムを約500万回以上見ていただいています。そういう意味では私が発信できるものがあれば、ぜひ共有していただきたいと思っています。

最後に1つだけ相談ですが、「未来おおだて市民」というキーワードは聞きなじみがあって分かるのですが、「未来おおだて市民」と聞くと未来の市民のことなのか、今は市民でないのか、ニュアンスの違いがあると何人かに言われたことがありました。

「今を生きる子どもたちが、いろいろ学んで将来大館に貢献してもらえるように育てる」と補足できる何かを入れられないかと感じています。キーワードとしてはいいですが、補足するようなメッセージをどこかに入れてもらいたいと思います。

○長岐教育長

「未来おおだて市民」について、私たちは10年以上もこの言葉を使ってきて、耳なじみなので初めてそういう指摘を受けて、そうだという発想になりました。

教育のトップが替わったこともあって、私も使う機会が少なかった部分もあります。機会を捉えて考えていきたいと思っています。

いいことだけではなく、教員の働き方改革や統廃合の問題、様々な課題があります。そういったことに対応していく上で、財政面などの課題を正面から克服するという視点も大事ですし、個人的にはせっかく強みを明らかにしようとしているので、その強みを更に磨くため、あるいは、その強みを未来につなぐために課題を克服できないか考えていきたいと思っています。ふるさとキャリア教育を発展させるための1つの施策に変換していければいいと思っています。

○小笠原委員

私はずっとPTA活動に携わってきましたが、例えば、「今日学校で草取りがあるので、誰かいませんか」と言われると仕事があるので厳しいですね。そこでPTAは子どもの親であるべきなのかなということをずっと疑問に感じています。

ここで「子や孫世代と共に栄える」ということで、PTAという組織にこだわることなく、そこにいるおじいさん、おばあさんにもPTAに加わっていただくことを今年度から私がPTA会長を務める中学校で取り組んでいこうと思っています。

具体的には、自転車置き場が壊れそうなのですが、市の財政でどうにかしてください

いと言ってもなかなかできません。それを保護者だけでなく地域のおじいさん、おばあさんに声をかけて修繕する方法はないですか、と聞くといろいろ出てくると思うのです。

そういう意味で、インフラに対してもPTAや地域を活用することを積極的に前に出していいただければと思います。校長先生が先導してできること、できないことがあると思うので、もう少し踏み込める仕組みがあればいいと感じています。そういう仕組みを今年度1年間で作りたいと思っています。

もっと地域の人材を取り込んで、インフラだけでなく市長がおっしゃっていた学校の先生がやらなくていいものについて、地域を活用する良い方法を少しでも考えられればと思います。

○石田市長

地域の方々が活躍できる仕組みづくりは我々の課題として、教育現場でもどう仕組みを作るかということを検討したいと思います。

今年度から包括的民間委託という仕組みを使い、挑戦しようとしているのは民間企業だけでなく、例えば町内会と連携して住民自治の意識で市民一人一人がまちづくりできる仕組みづくりを建設部で取り組んでいます。また、教育でも連携できる部分については情報交換しながら進めたいと思います。

○長岐教育長

保護者世代が仕事の関係で来られないときに、おじいさん、おばあさん世代が来るというところに着目して取り組んでいる学校はあります。学校が大きくなると賛否両論により動くのが難しいと思いますが、規模の小さい学校ほど率先して来ていただいている地域もあります。着目点としてはいいと思います。

○小笠原委員

そうやって、おじいさん、おばあさんのカッコいい姿を見せられることはモチベーションになると思います。

○石田市長

ありがとうございました。

他にご意見はありませんか。

なければ、今回の教育大綱について、異議なしとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

各委員からのご意見により、協議の結果、異議なしとのことでしたので、事業を進めさせていただきます。

以上、協議事項について、終了させていただきます。

その他、事務局から何かありますか。

○教育総務課長

今後の総合教育会議について、総合教育会議は首長と教育長、教育委員からなる教育委員会が、対等な機関同士の協議及び調整の場という位置付けから、秋に予算に関連した次年度に向けた内容の総合教育会議を考えております。

○石田市長

他になれば、終了させていただきます、事務局へ戻します。

○若松教育次長

皆様からの貴重なご意見、ありがとうございました。

今後、教育委員会としましては、策定されました教育大綱に基づき事務事業を執行してまいります。

以上をもちまして総合教育会議を閉会いたします。

本日はありがとうございました。

以上